



適正な 栽植密度	作型	10a 苗立本数	収量構成 のめやす	作型	m ² 当たり株数	1株当たり莢数	m ² 当たり莢数	百粒重	目標収量
	単作	10,000本		単作	10株	50莢	500莢	34g	300kg/10a
	麦跡	14,000本		麦跡	14株	40莢	560莢	30g	

播種・出芽 分枝・伸長 開花・着莢 登熟（粒肥大） 収 穫

時期	5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月			11月						
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上						
作業名	排水対策			種子準備 耕起・施肥・播種 除草剤散布			中耕培土			中耕培土 病害虫防除① 開花期			病害虫防除②			病害虫防除③ 病害虫防除④			雑草 青立ち株 除去!!			コンバイン収穫			土づくり
	★周囲明渠 ★弾丸暗渠 ★耕起前除草			★種子消毒の徹底 ★鳥害対策の実施 ★除草剤散布の徹底			【第1回目】 ★子葉節まで			【第2回目】 ★初生葉節まで 培土高15cm以下			★適期・適量散布を厳守 ★ほ場周辺へのドリフト防止のため液剤対応 【湿害・乾燥対策】 ・開花期～粒肥大期は多くの水が必要			★必要により畦間除草剤散布 ★開花後は暗渠栓を閉め土壌水分を保つ（雨が降ったときのみ開ける）→状況によっては畦間かん水をする			★収穫の晩限：成熟期より15日頃まで ★刈取時間帯：11時～16時頃						

※除草剤の希釈水量を確認し、散布する（散布水量が少なすぎると効果が劣る）★明渠等の点検・整備で湿害回避

【排水対策】

- ・消雪後、出来る限り早期にほ場の排水対策を実施する
- ・ほ場周囲の明渠（排水路につなげる）・弾丸暗渠
- ・ほ場の団地化、耕起前除草剤の散布

ポイント・・・降雨後、地表水を24時間以内に排除する

【土壌改良・基肥】（10a 当たり）※地力により増減する

- ・土づくり 有機物の投入（ケイフン等）
- ・酸度矯正 マグクリン 60kg
- ・基肥 ワンタッチ大豆（緩効性肥料） 40～50kg
- 国産化成肥料 14-14-14 12～24kg
- 有機入り大豆配合2号 20～40kg

【追肥】（10a 当たり）

- ・湿害による黄化や生育不良などが見られた場合は、速効性肥料により培土時または開花期に追肥する
- ・地力の低いほ場や連作ほ場は、しわ粒の発生軽減と増収のため、緩効性肥料により2回目培土時に追肥する（ただし、基肥に緩効性肥料を施用した場合は重複施用しない）

【種子準備】

- ・種子更新 100% ※ルートビーズ種子塗沫処理（種子1kg：8ml使用）*ケルザー前に
- ・種子処理

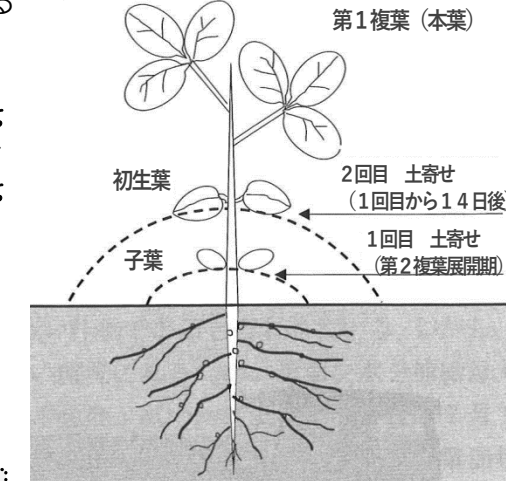
薬剤名	薬剤量(1kg)	対象病害虫
ケルザーMAXX	原液8ml塗沫	苗立枯病、紫斑病、茎疫病、黒根腐病、アブラムシ類、タネバエ、ネリムシ類、フスジヒカムシ、ハト、キジバト

- ・播種量 単作 4～5kg（8～10本/m）5月25日～6月上旬
 - 麦跡 5～6kg（12～15本/m）6月中旬
- ポイント・・・播種時期に合わせて栽植密度を調整

★排水条件の悪い場合・・・
→『畝立播種栽培』で発芽・苗立ちを安定させる

【中耕・培土】

- ・1回目 播種20～25日後
- ・2回目 1回目の2週間後
- ・畝がM字型にならないよう注意する
- ・開花始めまでに終了する



【病害虫防除】周辺作物に飛散しないように注意する！

区分	時期	対象病害虫	薬剤名
基幹防除①・②	7月第2半旬～8月第1半旬 ※前年多発ほ場は7月の発生要観察	ウコンノメイガ	プレバソンフロアブル5
		アブラムシ	スミチオン乳剤
基幹防除③	8月20日～25日頃 (開花期4週間後頃)	紫斑病	アミスター20フロアブル
		子実害虫	ラジヘリ
基幹防除④	8月第5半旬～9月第1半旬	マメシクイガ等	プレバソンフロアブル5
			アデオン乳剤

ポイント・・・開花期や病害虫の発生状況を把握し適期防除、薬剤が株元までかかるように丁寧に散布する

【除草剤散布】周辺作物に飛散しないように注意する！

令和5年3月31日現在 於『農業総覧2023 確認済』

時期	薬剤名	薬剤量(10a)	備考
耕起前 播種前	ラウンドアップ マックスロード	200～500ml	水量 50～100ℓ (耕起前または出芽前まで)
	タッチダウンIQ	250～500ml	水量 25～100ℓ (耕起または播種7日前まで)
播種後	覆土直後	クリアタン細粒剤 F 4～5kg	一年生雑草
	出芽前	クリアタン乳剤 500～800ml	一年生雑草 水量 70～100ℓ
	出芽前～生育期	プロルプス乳剤 400～600ml	一年生雑草 水量 70～150ℓ
雑草生育期	全面畦間処理	パワーガザ液剤 200～300ml	一年生雑草 水量 100ℓ (雑草発生揃期～2葉期 但し収穫30日前まで)
	全面畦間処理	ボルトフロアブル 200～300ml	一年生イネ科雑草 水量 25～100ℓ (雑草生育期～収穫30日前まで) 1回
		ワサド P 乳剤 75～100ml	一年性イネ科雑草 水量 25～100ℓ (雑草生育期～収穫60日前まで) 1回
		大豆バサラン液剤 100～150ml	一年生雑草 (イネ科除く) 水量 100ℓ 開花前まで (収穫45日前まで) 1回
	畦間処理	ラウンドアップ マックスロード 200～500ml	一年生雑草 水量 50～100ℓ (雑草生育期～収穫前日まで) 2回以内
		タッチダウンIQ 250～500ml	一年生雑草 水量 25～50ℓ (雑草生育期～収穫前日まで) 2回以内
		ザク液剤 300～500ml	一年生雑草 水量 100～150ℓ (雑草生育期～収穫28日前まで) 3回以内
		バスタ液剤 300～500ml	一年生雑草 水量 100～150ℓ (雑草生育期～収穫28日前まで) 3回以内
	土壌	ダイソゾル 100～200ml	一年生雑草 水量 100ℓ (雑草生育期～収穫30日前まで) 1回以内

【刈取】

- ・完全に落葉し莢が褐色になった頃が成熟期
- ・試し刈りを行い汚粒や損傷粒の発生状況、子実水分等を確認してから適期に刈り取る
- ・汚粒防止のため、雑草や青立ち株を取り除く

汚粒の発生しやすい時刻は収穫を避ける

刈り取り高さ・土砂の掻き込みに注意する

適期刈り取りに努める

【乾燥・調製】

共同乾燥調製施設へ搬入する